



帯広市立広陽小学校 学校だより
Obihiro Koyo Elementary School

広陽

令和 5年 5月 8日 No 3 文責 野田 淳

<重点教育目標>

心と声と目線をそろえ、よく考え、よく動く広陽っ子!

～ あいさつ・ありがとう・やる気・根気 ～

- 整える(くつ・言葉・姿勢)
- 交わす(あいさつ)
- みがく(聞く態度)



令和5年度 学校経営グランドデザイン

帯広市立広陽小学校

全校参観日ならびに PTA 総会、学級懇談会へ多くの保護者の皆様に御参加頂き心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

広陽小学校児童の特徴として、昨年6年生を対象に行われた全国学力学習状況調査による長所と改善点を、それぞれ3点に絞ってお伝えしました。(右の表)

児童の実態

- 自分にはよいところがある(85%)全国比+5.6
- 決めたことは最後までやる(89%)全国比+10.4
- 地域の大人と勉強やスポーツする(42%)全国比+10.9
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい(61%)全国比-12.1
- 課題に向け自分で考え自ら取り組む(60%)全国比-17.0
- 毎日同じ時間に就寝する(72%)全国比-9.8

広陽の子ども

- ねばり強い子ども
- 考える子ども
- たすけあう子ども
- 思いやりのある子ども
- たくましい子ども

昭和54年に広陽小学校は誕生しましたが、その時に「広陽の子ども」として5つのめざすべき姿を決めました。(左の表)

近年では、1年間で子どもの成長のどの部分に重点をおいて育成するのかをもっと明確にするようになりました。それが重点教育目標(重点目標)と呼ばれるものです。(下)

心と声と目線をそろえ、よく考え、よく動く広陽っ子!
～「あいさつ」「ありがとう」「やる気」「根気」～

では、その重点目標には、どのような思いが込められているのかをご覧ください。

イメージする具体的な広陽っ子の姿

- <心> (言語環境、姿勢、くつ)を整える → 先を見通し、時間を大切に使える子
- <声> 自分からあいさつができ、しっかり返事ができる → 朗らかで意欲的な子
- <目線> 話し手を見て、最後まで話が聞ける → 考える力と優しさを纏った子

重点教育目標達成のための4つの観点

- <あいさつ > 人とつながり、自分の居場所を実感できる学級・学校環境を作る
- <ありがとう> 感謝の心で視野を広げ、他者と関わり、自己有用感を育成する
- <やる気 > 安心できる環境の中で、学力・体力向上に向け前向きに挑戦する
- <根気 > その時その時の気分で終わらず、物事を成し遂げる力を養う

以前のような詰めこみ教育ではなく、人と繋がるコミュニケーションで、人の中で力強く生きていける子どもの育成を目指しています。そのための「生きる力の育成」を目指しているのです。生きる力とは、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」だと文科省は捉えています。その3つの力を育てていこうとしているのです。具体的には、各教科の資質能力を身に付け、将来自分の力で生き抜く力をしっかりと身に付けてほしいと願っています。

昭和54年に広陽小学校が誕生してから45年目を迎えました。まもなく大学受験制度も変更されます。「たくさん知識を暗記して、テストで高得点を取り、いい大学に行き、いい職業に就き、安定した一生を送る」といった戦後の社会制度は崩れてしまいました。ユーチューバー等の、考えてもいなかった職業が人気職業の上位に挙がり、これからはAI（人工知能）ができる職業は、AIにその職を奪われていく時代を迎えます。

学校力「4つの重点」

- 組織力**
(指定地域共通の改革)
- 授業改善**
(児童が主語の授業)
- ICT活用**
(個別最適な学びの向上)
- 働き方改革**
(目標設定と意識改革)

これからの時代を生きていく子供たちは、AIではできない職業、つまり「相手の感情を考えたコミュニケーション」「イレギュラーなケースが多い仕事」「学校教育に関する仕事」「クリエイティブな作業」「AI開発」ができる人材に育ててあげる必要があるのです。

育成を目指す資質・能力

資質・能力	【確かな学力】 ～よく考え～	【豊かな心】 ～心・声・目線～	【健やかな体】 ～よく動く～
生活に生きる 「知識・技能」の習得	学習規律の着実な定着 基礎的・基本的な知識技能ユニバーサルデザインを意識	基本的な生活習慣 ・あいさつ・返事・やる気 ・根気・揃える	基本的運動技能の習得 ・持久力 ・調整力(反復横跳び)
未知の状況にも対応できる 「思考力・判断力・表現力等」の育成	課題解決への思考 互いの考えを聞き、違いや良さに気づくことで、自分の考えを深める	自己肯定感の育成 多様な考えの尊重	生活習慣の自己評価 運動の工夫
学びを人生や社会に生かそうとする 「学びに向かう力・人間性等」の涵養	主体的な学習態度 見方・考え方の活用	課題の発見 自己や集団の向上	生活習慣の課題改善 体力向上に挑戦

少し難しい話になってしまいましたが、突き詰めると、実は至ってシンプルな答えが返ってくるように思います。つまり、昔ながらの「生活力のある子ども」を育てることではないでしょうか。自分のことは自分でできる、朝自分で起きられる、掃除をしっかりと、など自立した人間に育てることです。

重点目標達成に向けた経営方針（学校力の捉え方）

学校が一体となって、組織的な力で実現する「教育力」
個々の教員の力に、過度に依存しない「チーム力」

働き方改革の推進

時間外在校等時間 ・1か月で45時間以内
・1年間で360時間以内

元気な子どもを育てるには、元気な先生でいてもらいたいというのが、働き方改革です。なかなか、時間外勤務が多い職業ですので、必要なものと改善すべきものをしっかりと判断しながら進めて参ります。最後に、重点目標を具体化していくための取組もまとめていますので、ご覧ください。

重点目標の具現化に向けた今年度の取組

～よく考え～ 教務・学習・研究・学年	～心・声・目線をそそえ～ 生徒指導・教務・学年	～よく動く～ 保体・教務・学年
1) 学びに向かう姿勢の定着 ・学習規律の確実な定着 ・基礎知識の定着の徹底 ・朝学習や家庭学習との連動	4) 人と繋がる人間力の育成 ・気持ちのいい あいさつと返事 5) 明確な学級経営方針 ・「授業で勝負」「 個を大事にする 」 「児童への愛情」が基本 ・ 自己肯定感の更なる育成 (一人の 人格として尊重 する) ・「情報モラル」等の育成	7) 基本的な運動能力の習得 ・ 体育科授業の運動量の確保 、外遊びや体育館遊びの推奨 ・新体力テストの丁寧な実施(基準を明確にし共有する) ・体育科授業における「 作戦・工夫 」の位置づけ
2) 児童を主語にした授業改善 ・読解と記述に焦点を当てる ・単元計画と評価の一体化 ・見通しと振り返り	6) 生命を尊重する態度の育成 ・ いじめは絶対にだめだ と考える児童 100%の達成 (現98.1%) ・ユニバーサルデザインの視点に立った学級経営	8) 望ましい生活習慣 ・食事や 就寝時間 など健康的な生活習慣の形成支援
3) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現 ・Chromebookの効果的な活用 ・ AIドリル を用いた基礎定着		9) 感染症対策能力 の育成 ・主体的に対策できる力 ・ 場に応じた判断 ができる力

家庭・地域、学校運営協議会との連携

- 地域と学校の課題の共通理解
- 学校だより・HP による情報発信
- 学校運営協議会による地域の教育力の向上
- 関係機関と連携した教育相談
- 「働き方改革」への理解と協力

